

よど
がわ
かい
しゅう
き
ねん
ひ

淀川改修記念碑

(所在地) 海老江六丁目四 海老江中公園内



改修前の海老江

『大阪市史 附図』より



改修後の海老江

『鷺洲町史』より

淀川流域は明治一八年(一八八五)の大洪水をはじめ、長年にわたり水害によって大きな被害を受けていた。改修への要望はおおしふきたろう
大橋房太郎によって具体化し、明治三〇年(一八九七)に着手、明治四一年にほぼ完成した。蛇行していた川をまっすぐにするた
め、海老江村は七割近くが水没した。新しい川は「新淀川」と呼ばれ、水害の被害は少なくなった。

疏河そが 紀恩きおん の 碑ひ

【碑文】

澱江之水浩浩々々岐於神崎枝於中津其本流則入浪華故受利多在城市被害率在郡村当其
一時暴漲則破堤流土汎濫橫溢村沒於泥海人叫於飢渴豈不可謂慘哉 沿岸志士憂之有年一
旦奮起大凶除其害講法於學術竭力於建議上下兩院遂納之政府可之於是廿九

年起工州九年略竣功蓋旧中津川直径凡二百間 今則為三百六七十間 水路自長樂分下至海口旧長六
千七百廿間 今則為五千二百間 其堤防堅實宛然 如丘阜而南堤外別鑿一渠便於漕運總資凡
一千万円 其半費于此中津川是足為本区改修之大要嗚呼今也沿岸衆庶各安其業而得遂仰事
俯育之樂音抑誰之賜也 今茲西成郡海老江部落某々相謀欲建石於祇園祠 前紀其恩以告後
世子孫來請予文乃叙其梗概且之銘曰

澱江之水 神世叵稽 其見于史 日茨田堤

此花之址 世伝遺芳 豊崎之跡 幾遭滄桑、

武門迭興 豺平是虎 磨爪張牙 何間民苦、

元和偃武 頗洽河川 仍是霸術 用威弄權、

懿矣明治 先民之利 疏河大成 生死易地、

昔泣泥海 今醉春風 維此貞石 永勒偉功

明治四十一年歲次戊甲春三月、浪華黙化道人 田部密撰并書

浪華大黒橋飯田明尊刻